

録が無いことから、近似の別種の可能性もあるの  
で、今後はオスによる同定が必要である。

末筆ながら、マルチビガムシの情報や和歌山県  
産、滋賀県産標本の借用でお世話になり、本稿を  
ご校閲いただいた福岡県保健環境研究所の中島淳  
博士および調査の補助を務めていただいた妻の奈  
美に厚く御礼申し上げる。

#### 引用文献

- 上手雄貴, 2016. 失われゆく流水性甲虫類. 昆虫と自然, 51 (7):  
15-19.  
森本静子・中島 淳, 2011. 近畿地方におけるマルチビガムシ  
の採集記録 2 例. 月刊むし, (482): 43-44.  
佐藤正孝, 1985. ガムシ科. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝(編),  
原色日本甲虫図鑑 II, pp. 208-217. 保育社.

(上手雄貴 467-8615 名古屋市瑞穂区萩山町 1-11  
名古屋市衛生研究所)

#### 【短報】 放置されたペットボトルトラップ内に残ったマルコガタノゲンゴロウなど水生甲虫類の死骸

東北地方において種の保存法指定種マルコガタ  
ノゲンゴロウの生息調査(捕獲等許可番号: 環東地  
野許第 1609201 号)を実施した際、何者かが放置し  
たペットボトルトラップを回収し、中に残存した  
水生甲虫類の死骸を調査したので報告する。なお、  
種の保存法指定種を含む希少な水生甲虫類の記録  
について地名を公表することは保全対策上好ましく  
ないので、本報では地名を「東北地方」に留め  
ることにした。

2016 年 9 月 25 日午前、東北地方のため池に隣  
接する休耕田の陸上で放置されたペットボトルト  
ラップを発見した(図 1)。本体は 500 ml 炭酸飲料  
用のボトルであり、昆虫関連 Web ページや書籍に  
ある標準的な方法(野村, 2018)で作製されていた。



図 1. 放置されたペットボトルトラップ。

発見したトラップは、じょうご状の部分とボトル  
本体を結び付けた加工の丁寧さから、大人が作製  
したのではないかと考えている。

水中には他のトラップが仕掛け続けられている  
可能性もあるため、タモ網で水底をさうように  
探ったものの、他の放置物は確認出来なかった。  
その際マルコガタノゲンゴロウを混獲する恐れも  
あったが、前述の通り捕獲等許可を得ているので  
問題なかった。

筆者は、トラップをポリ袋に入れて持ち帰り、  
後日自宅にてトラップを分解し、内部に残存した  
腐敗臭を放つ水生甲虫類死骸のバラバラになった  
部位を組み合わせつつ(図 2)、種類と個体数を調  
査した。その際小石 2 個も発見したがトラップの  
重しか、偶然トラップ入口から入ったものかは定  
かではなかった。

- [調査結果] 放置トラップ内の残存物  
マルコガタノゲンゴロウ *Cybister lewisianus* (Sharp)  
6 exs.  
ゲンゴロウ *Cybister chinensis* (Motschulsky)  
1 ex., 2 令幼虫 2 exs.  
クロゲンゴロウ *Cybister brevis* (Aube)  
14 exs.  
コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus* (Clark)  
92 exs.  
ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (Stephens)  
12 exs.  
ガムシ *Hydrophilus acuminatus* (Motschulsky)  
3 exs.  
コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp)  
1 ex.

トラップの発見場所は休耕田であるが、死骸は  
そこに隣接するため池に生息していた個体のもの  
と考えられる。トラップの設置者は不明、設置年  
月日も不明である。



図 2. 大型水生甲虫類と(右上)小石 2 個。